

ぬるま湯科技厅 また過ち

原潜放射能・日本分析化研データラメ報告

流石

1/30
コンピュータ・キブルド・ザ・とで田中首相は数字に強い。数字を出されるとつい信用する。こゝろが、なかでも数字に強くなつた科学技術庁の、米原子力潜水艦寄港時の放射能測定報告に誤りがあることが二十九日衆院予算委員会で明らかとなった。原潜の放射能については四十三三年佐世保港で起こったソートフィッシュ号事件がある。この原潜がたれ流した放射能を抽出しておきながら、科学技術庁はその事実を否定し、ウソをついた。同庁は二度と国民の信頼を裏切らぬことを誓いながら、過ちを繰り返した。国の放射能監視に対する信頼が失われたらどういふ結果になるか。

「この間違ひはひどすぎる。まが、原簿と報告書とは、測定の日付が違つていた。」
たとは、四十七年三月十九日から四月一日まで横須賀港に入港

の沖縄返還後、八隻の米原潜が寄

佐世保、横須賀両港に原潜が寄港すると、海水・海底土を採取して分析する。原潜が寄港中放射能を出したかどうかチェックするためである。科学技術庁はこの業務を始めたときから東京の日本分析化学研究所に委託してきた。

「裏金機関」に委託

これでは「原発」不信増幅

不破氏は、研究所にある海水測定装置と科学技術庁に提出された報告書とを比較してみた。調べたのは四十七年度の調査の一部だ。たと書かれている。

日本分析化学研究所への委託一覧(単位万円)

48年度	項目	金額
7,606	放射能分析標準化等	1,880
1,880	一般公害	781
781	農薬、PCB	4,503
4,503	放射能関係	1,878
1,878		7,553

示した原潜放射能測定日と測定日がずれ、違つた——という)

ところが、研究所の測定記録原簿には、約一か月後の五月十二

三十日に測定されたことになっている。

「報告が測定よりあとになる」とは、まああるだろう。測定した日よりも報告の方が早いのはどうしたわけだ」と不破氏はいった。原潜から流れ出た放射能のほとり

がさめるのを待つて分析した、と疑われても仕方がない。

「あとからデッチあげたのではなか」と不破氏は政府を追及した。たとへば、四十七年五月のデータはひどい。四十七年五月の沖縄返還後、八隻の米原潜

が寄港して、十三種類のカー

るモニタリング・ポストに異常が記録されるはず。調べたところでは異常はなかったと答弁した。この放射能測定値のこまかし問題は、昨年九月二十日、衆院科学技術委員会特別委員会、山原二郎氏共産党が、やはり指摘した。その日の午後、科学技術庁は三人を派遣して日本分析化学研究所を立ち入り検査、続いて十月四日も検査した。

この検査で一部に計算ミスのあったことや、日付の違いが三〇％もあることを発見した。しかし分析は正しい方法で実施されていたという。しかし、波高分析のカーブまでは見抜けなかった。

なぜこの検査がお粗末だったか。科学技術庁は原潜の放射能検査を安易に考えすぎている。真実さが足りないのではないか。四十七年佐世保港で起きたソートフィ

ン号事件も、同庁のぬるま湯で検査の報告書を作った疑いがある。佐世保港で測定された異常放射能が科学技術庁に届くのに、三時間しかかかった。異常を発見した現地の佐世保海上保安部の職員に「これは一大事だ」という緊急感

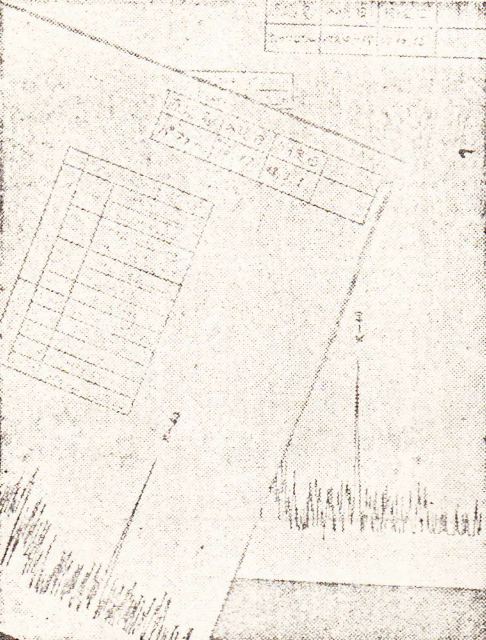
がなかったためである。異常発見と同時に現場の海水を採取して、放射能測定機で測る。この手順を、放射能汚染かどうかの証拠をつかむことができ、あのような事件に発展することはなかった。このとき報告を受けた科学技術

ツシ号事件も、同庁のぬるま湯で検査の報告書を作った疑いがある。佐世保港で測定された異常放射能が科学技術庁に届くのに、三時間しかかかった。異常を発見した現地の佐世保海上保安部の職員に「これは一大事だ」という緊急感

がなかったためである。異常発見と同時に現場の海水を採取して、放射能測定機で測る。この手順を、放射能汚染かどうかの証拠をつかむことができ、あのような事件に発展することはなかった。このとき報告を受けた科学技術

ツシ号事件も、同庁のぬるま湯で検査の報告書を作った疑いがある。佐世保港で測定された異常放射能が科学技術庁に届くのに、三時間しかかかった。異常を発見した現地の佐世保海上保安部の職員に「これは一大事だ」という緊急感

ぬるま湯科技厅 また過



衆院予算委で不破氏が提示した原発放射能測定調査票の写し（入港日と測定日がずれ、違う原発の測定結果が同じだ——という）

「この間違いはひどすぎる。だが、原簿と報告書では、測定の日付が違っていた。たとえ、四十七年三月十九日から四月一日まで横須賀港に入港したと、海水と海床土を採取して分析する。原簿が海水中放射能を出したかどうかチェックするたためである。科学技術庁はこの業務を始めたときから東京の日本分析化学研究所に委託してきた。

不破氏は、研究所にある海水測定原簿と科学技術庁に提出された報告書とを比較してみた。調べたのは四十七年度の調査の一部だ。たとえ書かれている。

裏金機関に委託

これでは「原発」不信増幅

（科学技術庁原子力局放射能課調べ）
日本分析化学研究所への委託一覧（単位：万円）

項目	46年度	47年度	48年度
科学技術庁	7,121	8,841	7,606
通産省関係	168	265	—
運輸省関係	359	52	—
建設省関係	1,766	5,196	1,880
農林省関係	53	—	—
環境庁関係	1,140	1,317	781
農林省関係	7,956	6,338	14,503
電力会社	1,277	1,399	1,878
その他民間	2,968	10,580	7,553

「プを作り、それを複製しただけで、検査の報告書を作った疑いがある。佐世保港で測定された異常放射能値が科学技術庁に届くのに、三時間しかかかった。異常を発見した現場の佐世保海上保安部の職員に「これは一大事だ」という緊迫感があったためである。異常を発見した現場の海水を採取して、放射能を同時に記録するので、人間の指紋と同様、一致するとはあり得ない。なぜ、こんなゴマカシをやったのか。

田宮茂文科学技術庁原子力局長は「一日付が違ったのは、原簿から報告書に写し取る時、うっかりしたものだ」と言う。波高分析のことは知らなかった。すぐ調査する。しかし原簿から放射能がもれ出ているとすれば、現地で海中、空気中の放射能を常時監視してい

「プを作り、それを複製しただけで、検査の報告書を作った疑いがある。佐世保港で測定された異常放射能値が科学技術庁に届くのに、三時間しかかかった。異常を発見した現場の佐世保海上保安部の職員に「これは一大事だ」という緊迫感があったためである。異常を発見した現場の海水を採取して、放射能を同時に記録するので、人間の指紋と同様、一致するとはあり得ない。なぜ、こんなゴマカシをやったのか。

「プを作り、それを複製しただけで、検査の報告書を作った疑いがある。佐世保港で測定された異常放射能値が科学技術庁に届くのに、三時間しかかかった。異常を発見した現場の佐世保海上保安部の職員に「これは一大事だ」という緊迫感があったためである。異常を発見した現場の海水を採取して、放射能を同時に記録するので、人間の指紋と同様、一致するとはあり得ない。なぜ、こんなゴマカシをやったのか。

「プを作り、それを複製しただけで、検査の報告書を作った疑いがある。佐世保港で測定された異常放射能値が科学技術庁に届くのに、三時間しかかかった。異常を発見した現場の佐世保海上保安部の職員に「これは一大事だ」という緊迫感があったためである。異常を発見した現場の海水を採取して、放射能を同時に記録するので、人間の指紋と同様、一致するとはあり得ない。なぜ、こんなゴマカシをやったのか。

「プを作り、それを複製しただけで、検査の報告書を作った疑いがある。佐世保港で測定された異常放射能値が科学技術庁に届くのに、三時間しかかかった。異常を発見した現場の佐世保海上保安部の職員に「これは一大事だ」という緊迫感があったためである。異常を発見した現場の海水を採取して、放射能を同時に記録するので、人間の指紋と同様、一致するとはあり得ない。なぜ、こんなゴマカシをやったのか。

「プを作り、それを複製しただけで、検査の報告書を作った疑いがある。佐世保港で測定された異常放射能値が科学技術庁に届くのに、三時間しかかかった。異常を発見した現場の佐世保海上保安部の職員に「これは一大事だ」という緊迫感があったためである。異常を発見した現場の海水を採取して、放射能を同時に記録するので、人間の指紋と同様、一致するとはあり得ない。なぜ、こんなゴマカシをやったのか。

「プを作り、それを複製しただけで、検査の報告書を作った疑いがある。佐世保港で測定された異常放射能値が科学技術庁に届くのに、三時間しかかかった。異常を発見した現場の佐世保海上保安部の職員に「これは一大事だ」という緊迫感があったためである。異常を発見した現場の海水を採取して、放射能を同時に記録するので、人間の指紋と同様、一致するとはあり得ない。なぜ、こんなゴマカシをやったのか。

「プを作り、それを複製しただけで、検査の報告書を作った疑いがある。佐世保港で測定された異常放射能値が科学技術庁に届くのに、三時間しかかかった。異常を発見した現場の佐世保海上保安部の職員に「これは一大事だ」という緊迫感があったためである。異常を発見した現場の海水を採取して、放射能を同時に記録するので、人間の指紋と同様、一致するとはあり得ない。なぜ、こんなゴマカシをやったのか。

「プを作り、それを複製しただけで、検査の報告書を作った疑いがある。佐世保港で測定された異常放射能値が科学技術庁に届くのに、三時間しかかかった。異常を発見した現場の佐世保海上保安部の職員に「これは一大事だ」という緊迫感があったためである。異常を発見した現場の海水を採取して、放射能を同時に記録するので、人間の指紋と同様、一致するとはあり得ない。なぜ、こんなゴマカシをやったのか。